

# 再帰的なグローバル社会における自己・身体・障がい



日時：2015年6月4日（木）13:00～16:10

会場：立命館大学衣笠キャンパス 学而館2階第3研究会室

講演①：アンソニー M. エリオット（南オーストラリア大学ホーク研究所 教授）

講演②：エリック L. スー（南オーストラリア大学ホーク研究所 ポストドクトラルフェロー）

司会：井上 彰（立命館大学大学院 准教授）

本研究会企画では、再帰的近代化(Giddens や Beck)がさらに一層進んだ、いわばハイスピード化した社会において、自己や身体フレームがどのように変化しつつあるのかに焦点を当て、とくに障がいがいかに取り扱われるのかについて検討する。社会の加速化についての理論(social acceleration theory)で著名な、南オーストラリア大学ホーク研究所(Hawk Research Institute, University of South Australia)のアンソニー・エリオット(Anthony M. Elliott)氏とエリック・スー(Eric L. Hsu)氏をお招きして、上記テーマについて最新の理論とその含意についてご報告いただき、フロアを交えてディスカッションを行う。

13:00～13:10 趣旨説明：井上 彰

13:10～14:00 講演① アンソニー M. エリオット（南オーストラリア大学）“Reinvention in the Global Age”

14:00～14:30 フロアを交えてのディスカッション

14:30～14:40 休憩

14:40～15:30 講演② エリック L. スー（南オーストラリア大学）“The Self in the Stream of Social Acceleration: Slowness, Speed and Disability”

15:30～16:00 フロアを交えてのディスカッション

16:00～16:10 閉会の挨拶：井上 彰

- ・事前のお申込みは不要ですが、席数・資料数には限りがございますので予めご了承下さい。
- ・会場の衣笠キャンパスには公共交通機関にてご来場下さい。

<お問合せ先>

立命館大学生存学研究センター事務局  
TEL:075-465-8475 FAX:075-465-8245  
Email:ars-vive@st.ritsume.ac.jp

